

✿ 本庁舎エントランスでの展示

このたび完成した奈良文化財研究所本庁舎には、庁舎の中心となる本館とともに、南側には2階建ての小規模なエントランス棟があります。

庁舎の建替工事にともなう庁舎下の発掘調査では、西一坊大路や一条南大路の条坊側溝、平城京造営期の大規模な土木工事の跡、造営後の大路の修繕や改修の様子等が確認されました。このことを受け、庁舎のエントランス棟に、このたびの成果を紹介するための展示スペースを設けました。

この展示スペースでは、平城京造営前、平城京造営期、奈良時代の3期に分けて出土資料を展示しています。平城京造営期には、「奈良京」と書かれた木簡が出土し、「奈良」の表記が平城遷都当初まで遡ることがあきらかとなったほか、大路造成にもなっておこなわれた、齋串いぐしを使った祭祀の具体相を示す遺構の検出等、貴重な事例も確認されました。

また、庁舎の建つ場所は運河を埋め立てた土地であるため、敷葉しきば・敷粗朶しきそだ工法という軟弱地盤を改良する工夫や、液状化現象等の災害痕跡も検出されました。これらの事例も、土壌の切り取りやはぎ取り標本として展示しています。

本庁舎では出土資料の展示のほかに、庁舎外構に大路や条坊側溝等の遺構表示もおこなっています。遺構表示とあわせて展示をご覧いただくことで、庁舎の地下に眠る遺構を、より身近に感じていただくことができると考えます。

平城京の遺構と共存し調査成果を公開する奈文研らしい庁舎で、今後もこの場所の往時の姿をお伝えできれば幸いです。庁舎の地下に眠る世界をぜひご覧ください。
(企画調整部 座覇 えみ)



本庁舎エントランスでの展示風景